

酪農試験場だより

No. 76



血液成分の分析をするスポットケム

今月の内容

- 1 飼料給与診断システムの改訂
- 2 冬作の雑草防除
- 3 放牧草地のギシギシ駆除方法

飼料給与診断システムの改訂



「飼料給与診断システム（乳牛編）」については、すでに酪農試験場だよりNo72号（平成8年1月）で、皆さんに紹介してあります。今回は、そのバージョンアップと育成プログラムの追加及びWindows版への移植について紹介します。

給与診断指標やシステムのポイントに関しては、No72号を参照してください。

まず、バージョンアップですが若干のバグ（不具合）を改善しつつ、使い勝手をよくしました。バグについても致命的なものではなく、旧バージョンのままでも充分利用可能ですので、現在利用中の方は心配なさらずにそのまま使用してください。

つぎに育成プログラムの追加ですが、平成8年1月時点では時間の都合上、成牛だけにしか対応していなかったために、酪農家の方や関係機関の方から早急な対応を要望され、今回完成しました。これで離乳後の子牛から成牛まで給与診断を実施出来ることになりました。利用方法等については、従来どおりでマクロ等の名前の追加で対応しています。

最後に、Windows版への移植についてですが、旧バージョンはLOTUS 1-2-3 R2.4J（DOS版）で作成されていたため基本的には、NEC製PC-98シリーズのみでしか利用出来ませんでした。今回の移植によってWindows 95はもちろん、OSがWindows 3.1以上のすべてのパソコンで利用が可能となりました。つまり、皆さんのお持ちのパソコンにWindows 3.1以上のOSが搭載されていて、かつLOTUS 1-2-3のソフトが組み込んであればメーカーや機種に関係なくどなたでも利用可能だということです。制限としては、Windows 95の場合出来ればメモリを16メガバイトは確保してほしいということです。

利用を希望される方は、LOTUS 1-2-3の操作方法をある程度理解されたうえで、最寄りの農業改良普及センターか直接、酪農試験場経営調査部までお問い合わせください。給与飼料の成分値と量さえ判れば、ご自分で我が家の給与飼料診断が実施出来ます。

（経営調査部 斎藤 実） 9

冬作の雑草防除

◇◇◆◆雑草防除は、収量確保の第一歩◆◆◇◇



牧草地に発生する、ナズナ・ハコベ・イゾギシギシ等の雑草は牧草の生育を障害し、牧草生産量や品質を低下させます。下の図は、雑草の混入により牧草生産量が低下する様子を示しています。また、今年の冬は乾燥傾向で推移したために、牧草の生育が悪く牧草の密度が低い圃場では、ナズナが大量に発生し、問い合わせが多くありました。このような圃場では、落下種子も多く、来春もまた大量に発生することが懸念されますので、防除を徹底することを、お勧めします。

すので、防除を徹底することを、お勧めします。

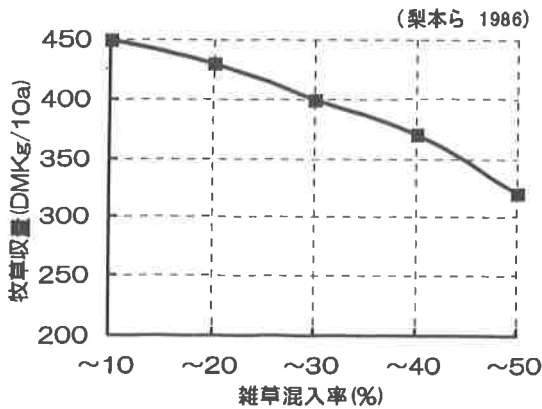


図 雑草の混入率による牧草の減収

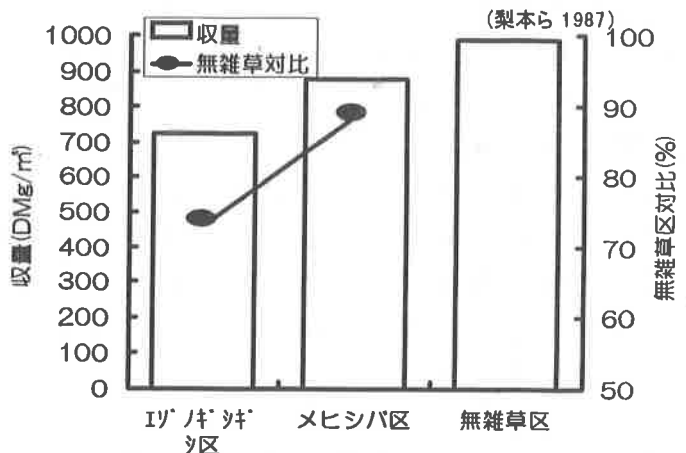


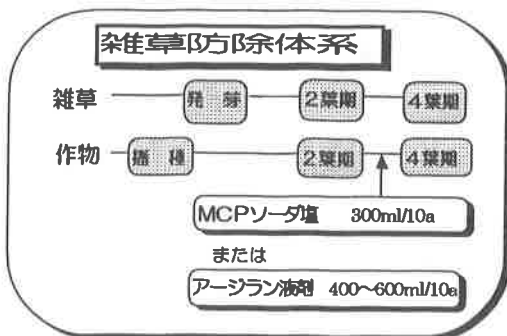
図 雑草の発生がオーチャードグラスの収量に及ぼす影響

防除法

○まず雑草の侵入防止を！！

- ・前作の雑草を十分に抑えてから、播種をする。
- ・牧草の播種を適期に行い、牧草の密度を確保する。(裸地を作らない)
- ・堆肥を投入する場合は、完熟したものを入れる。(雑草の種子を持ち込まない)

○除草剤による防除法



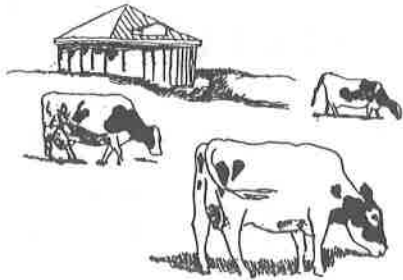
播種後45日前後に、MCPソーダ塩300ml/10a又はアージラン液剤400~600ml/10aを70~100%の水に溶かして散布します。

平均気温が5℃以下になると薬剤が吸収されなくなり効果が劣りますので、秋に散布できなかったときには、翌春の3月下旬に散布します。

(草地飼料部 星 一好)

放牧草地のギシギシ駆除方法

～新薬（除草剤）の紹介～



エゾノギシギシ（通称ギシギシ）は、強力で、一たび草地に入ってしまうと駆除することが非常に困難となります。

従来の除草剤では、グリホサート液剤（ラウンドアップなど）を50～100倍の高濃度でギシギシのみに直接散布するスポット散布法が最も効果的です。

しかし、公共牧場のような広い面積の場合は労力的に無理があるので、全面散布できる除草剤が必要です。が、従来から使えるものにはアシュラム液剤（アージラン）しかありません。この薬は、高温時に薬害が発生しやすく、使用時期が春と秋に限られるので、ギシギシの生育時期等との関係から根絶するのはなかなか難しいようです。

最近になって、日本芝や麦作用の除草剤で、新たに「牧草及び草地におけるギシギシ」への適用も認められたものがあるので紹介します。

1 MDBA液剤（バンベルD）

- (1) 広葉草選択性の除草剤で、アシュラム液剤より高い効果が認められます。
- (2) 10aあたり3～5gを100ℓの水に薄めて草地に全面散布します。
- (3) 使用時期は、放牧草地では収牧後であれば問題はありませんが、牧草に吸収された薬は分解されにくいので、翌春の5月頃までは放牧できません。
- (4) 薬害は、オーチャードグラスで若干黄変します。イネ科牧草への薬害は皆無ではないので、播種年に使用するのには注意が必要です。

クローバーは広葉なので相当強く出ます。

2 チフェンスルフロンメチル水和剤（ハーモニー750F）

- (1) 広葉選択性ですが、効果の程度は未確認です。
- (2) 10aあたり75～100mlを100ℓの水に薄めて草地に全面散布します。
- (3) 散布後の休牧は21日で済み、使用時期が限られないので、春に種子から発生したものに対して結実前に散布することも可能です。
- (4) 薬害は、オーチャードグラスに対してアシュラム液剤より少ないようですが、クローバーは広葉なので薬害が出ます。

紹介した新薬は、いずれも総使用回数が1回に制限されていますので、アシュラム液剤を含めたそれぞれの除草剤を時期ごとに使い分けるのが効果的と考えます。

（育成牧場 沼野井憲一）

酪農試験場だより 栃木県酪農試験場

No76

〒329-27西那須野町千本松298

平成8年9月1日

電話0287-36-0280